

Proposal For Seiyo City - "Renovate the Geopark"

Armin Unterkircher, Daichi Okano, Kohei Ishida, Kota Hara, Mariana Marmelada, Ryo Itoh

Research & Purpose

PROBLEM

一次産業の衰退



廃校と統合



空き家の増加



人口の流出



対象敷地であった西予市沿岸部は、甚大な津波被害が予想される地域でしたが、問題はそれだけではありませんでした。一次産業の衰退、教育インフラの衰退、空き家の増加、人口流出などほかにも深刻な問題を抱えていました。事前復興にもお金がかかりますが、そのような膨大な投資を行うことは、少し負担が重すぎるように思いました。

TWO-SIDED NETWORK: Geopark



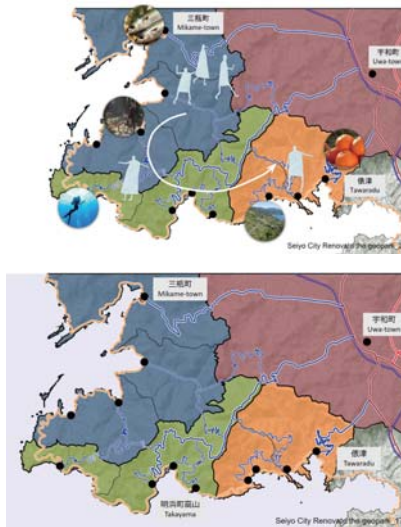
そこで僕たちは、地域の活性化と、事前復興を両立させる提案をしたいと思いました。そのためには、外部の力をうまく活用するとともに、地域内でのつながりや産業も、もう一度活性化しなければなりません。こうした二面的な需要のなかで、僕たちはジオパークに注目しました。

RENOVATE THE GEOPARK



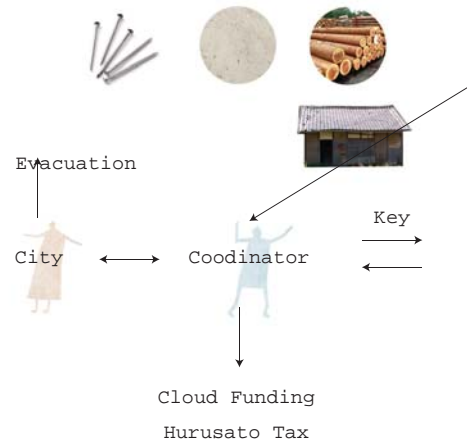
ジオパークは、「外部の人々に向けた、ジオと結びついた観光ネットワークの構築」と「ジオに基づいた地域内でのネットワークの醸成」という、二面的な役割をもっていました。そこで、こうしたネットワークの効用をうまく最大化できるシステムをつくることを考えました。

System Proposal

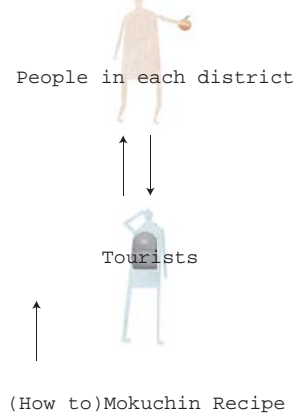


僕たちは、それぞれの地域が生活と観光の両方において分担して役割を担い、地域ごとのアイデンティティを維持し、そして高めながら、互いに協力できるような関係を築きたいと思いました。そして街をつなぐことで、はじめて巨大な魅力が人々に感じられ、同時にとても便利な街になる。そういうネットワークをつくりたいと思ったのです。

-Platform-



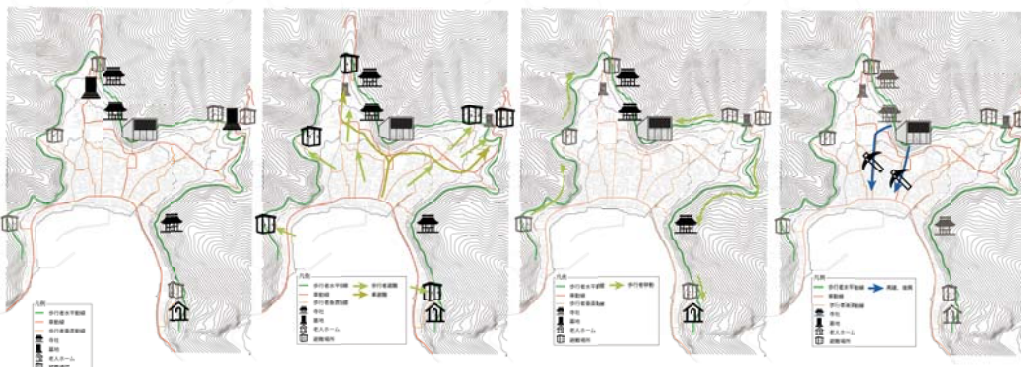
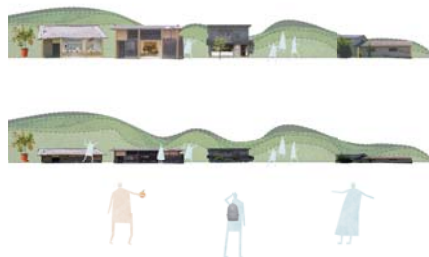
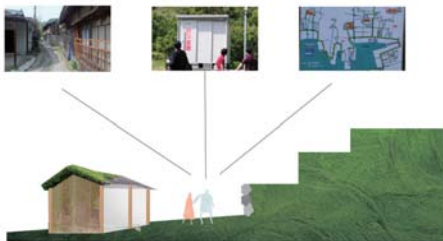
-User-



道路の部分的な拡張や、バスの時間の整備、道路の役割分担の策定などを行い、地域ごとのつながりが住人にとっても、観光客にとっても豊かにされるように整備しました。そのうえで、地域ごとの豊かさを醸成する仕組みとして、DIYバージョンの AIRBNB システムを提案しました。

危険な状態にある空き家をむしろリソースと捉え、都市に住む人々がそれをリノベーションしながら、街の産業にも貢献できるようにします。つまり地域産業の醸成であり、空き家の整備でありながら、観光客にとっては旅行であり、地域の体験であり、自由な創作の場となるのです。

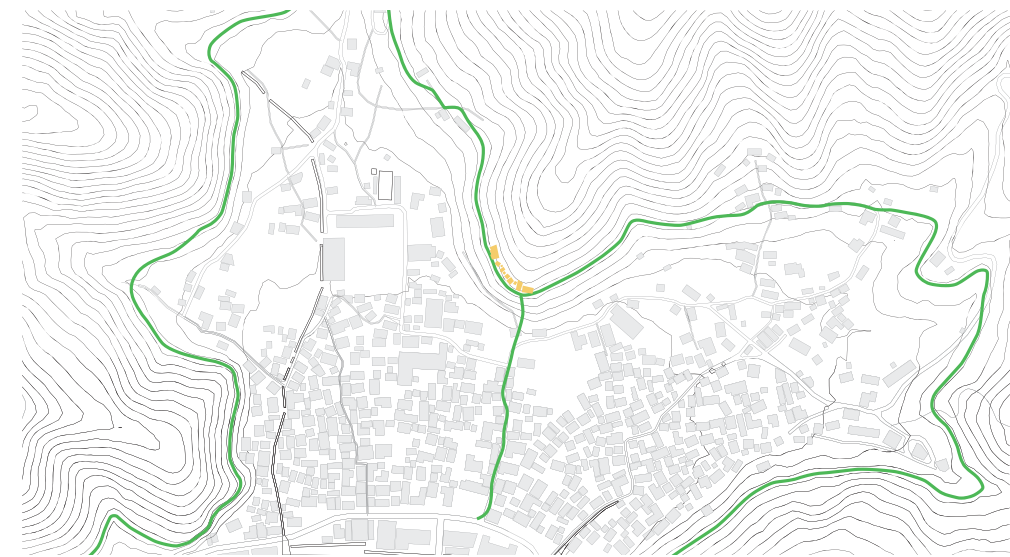
How it works in Evacuation & Revitalization



空き家が整備されることは、避難の際の危険度を下げます。また、段々畑も、観光客を利用して整備します。また、若い観光客を組み込んだ、避難計画をたてることができます。こうして避難をより確実なものにすることができます。加えて、復興の段には、地域内だけでなく、地域外のネットワークを活用して、復興を進めることができます。地域のことをよく知り、地域に愛着をもつひとが、地域外に少しずつ増えていくことはとても大きな資源となります。

僕たちは、こうしたシステムをつくりはじめるにあたり、高山から始めることにしました。位置的に今後中心的な存在となることが、現在の中心である宇和町・依津との連携ができること、西予市役所の支所があることなどがその理由でした。そして、ここは今後、地域全体を活性化させていく際のベースキャンプになるものとして、システムを運営するための建築を新築で設計しました。

Architecture Proposal



僕たちはここで、ネットワークを醸成していく拠点となるとともに、地域の活性化と事前復興の拠点となる建築を設計することを考えました。そうした目的を満たすため、集落の軸線に注目しました。垂直な軸線は、この集落の中心動線と、津波の際の重要な避難経路を担っています。一方で、水平な軸線は、山の等高線に沿っていました。これは、津波に進水された後の、人々の移動動線となるものでした。

集落の縦の軸線に対し、横の軸線に沿って建物を配置しました。普段は中心的な場所として機能しつつ、津波の際には、とりえず高台へ上った人々が、水平軸に沿ってこの建物に避難できます。二次避難の際には、宇和町へと抜ける道路へとアクセスできます。

建物は、普段はコミュニティセンター兼レセプション兼インフォメーションセンターとして機能します。この地域のジオそのものでもある石灰岩をモチーフに作られており、光を反射した明るさが集落の新たなシンボルとなっていきます。

